

令和7年度 女の都小学校学校評価報告書

1 教育目標

郷土愛に満ち、主体的・協働的に学びを取り組む、心豊かで心身ともにたくましい子どもの育成

2 学校経営方針

児童の夢や目標達成のため、学校内での協働、家庭・地域との連携によって、「学力」「礼儀・マナー」「自主性・実践力」を向上させ、「郷土を愛するめのとっ子」の育成を図る。

3 重点目標

- 校内研修の日常化と授業改善（ICT利活用の推進）
- 特別支援教育の充実
- 「あ・は・は・も運動」「めのと教育」の推進
- 安心・安全な学習環境づくりの推進
- 働きがい改革の推進
- 関係機関との連携推進

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	96	98	100	「学校運営」に関する領域全ての肯定的割合が90%を超えており、一定の評価を得ていると考える。また、全ての評価においても昨年度より上回っている。学校教育目標の達成を意識して学校・保護者・地域が連携して取り組んできた成果でもある。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	95	100	100	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			92	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			92	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	94	93	77	・「悩みや相談に親身に対応」の児童の評価がやや低い。相談しやすい環境を整えようと一人一人に寄り添うことができる支援・指導にあたっていく。 ・生活指導、挨拶、清掃の項目において、教職員の評価が低い。生活指導面については、学校での指導内容について保護者や地域に伝えて、地域総がかりで子どもを育てる雰囲気を醸成していくことが大切である。 ※本来の質問は、「あ・は・は運動を知っている」であるが、本校は重点目標の一つであることから、質問はレベルを上げた内容としている。
		挨拶をよくしている	98	88	54	
		「あ・は・は・も運動」を意識して生活している	96	89	62	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	76	91	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	95	85	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	95	93	92	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	96	98	100	
	特 別 支 援 教 育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	97	89	100	
清 掃 指 導	「もくもく掃除」に意識的に取り組んでいる。	83	100	54		
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	95	98	100	昨年度、保護者から最も厳しい評価だった「家庭学習の習慣化」が16ポイント上がっている。 Chromebookの活用と持ち帰りが軌道に乗っていることもあり、今後も家庭と連携して児童の意識を高めていく必要がある。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	91	90	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	91	78	85	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	95	84	100	
長崎のまちや女の都の地域が好きである		95	99	100		

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	95	95	100	「早寝・早起き・朝ごはん」の児童の評価がやや低い。家庭との連携が必要な項目なので、結果を保護者と共有するとともに、「すくすくカード」を活用しながら詳細について分析を進める。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	77	83	100	
		体力向上に努めている	91	90	92	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	86	95	92	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	94	98	100	「信頼される学校」に関する領域全てに一定の評価を得ていると考える。今後もPTA・地域との連携しながら、安心・安全な学校づくりを進める。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	89	96	100	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	91	96	100	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	95	89	100	校舎の老朽化が進み、危険箇所については、優先順位をつけながら対応している。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			85	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○成果・課題

(保護者)昨年度と比較して、肯定的評価が大きく増加しており、逆に肯定的評価が大きく低下した項目はない。
(児童)昨年度と比較して、全体的に肯定的評価の項目は増えているが、「悩みや相談」「基本的生活習慣」は大きく減少している。
(教諭)全体的に見ると高い肯定的評価になっている項目が多いが、「生活指導」「もくもく掃除」「家庭学習」とやるべきことがしっかりできていないと感じている割合が高い。

○対策等

- ・子どもたちの安心・安全を第一に考え、物的・人的環境の設備
- ・児童が安心して学べる環境づくり
- ・学校の取組、児童の活動の様子等、継続した積極的な情報発信

6 学校関係者評価

【1月23日「学校関係者評価」より(学校評議員、地域の意見)】

- ・女の都小学校の子どもたちは、素直でやさしい子である。
- ・あいさつや横断歩道時のマナーに関しては、見る限りではきちんとできている。
- ・以前は子どもからのいじめの相談を受けたことがあった。今はそういうことはない。

※地域の方には、子どもたちのことをたくさん褒めていただきました。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

あらめて、学校・家庭(育友会)・地域との連携を充実させる。

○信頼される学校

学校教育目標の達成には、学校だけではなく、保護者や地域の皆さんとの連携が必要である。そのためには、情報の共有、つまり、同じ目的をもち足並みそろえて子どもたちを育てていくことが大切である。

○心の教育

いじめ問題については、児童が示すSOSを見逃さないようにすること、予兆に気付いた時点で保護者にも情報共有や協力を得て、その改善を図る。また、相手に対する配慮ができる児童を育成するために、生活指導・人権教育、特別支援教育等の心の教育をはじめとする学校教育活動全体を通して、児童の心を育むとともに個に応じた指導・支援にあたっていく。

○大人が元気であることが子どものよりよい成長につながると考える。学校としても、先生たちが元気なことが児童の元気につながることから、より一層、教職員の心身の健康に十分留意しながら、教員がなすべき教育活動を推進していく。